

## 論文審査の結果の要旨

氏名：大 澄 朋 香

博士の専攻分野の名称：博士（薬学）

論文題名：薬局薬剤師の薬学的管理を支援するための情報の評価と提供に関する研究

審査委員：(主 査) 教授 亀 井 美和子

(副 査) 教授 白 神 誠 教授 日 高 慎 二

本論文は、地域の薬剤師が薬学的管理を行う上で必要となるエビデンスレベルの高い情報を迅速かつ正確に提供するための方策を構築することを目的として、メタ・アナリシス論文を質の観点から評価するための基準を作成し、作成した評価基準と記載様式の観点からの評価基準を用いて論文を評価した結果を分析することにより、作成した評価基準の妥当性を検証したものである。本論文は3章で構成される。

第1章では、メタ・アナリシス論文を質の観点から評価するための評価基準を作成した。メタ・アナリシス論文の評価には **QUOROM statement** や **PRISMA statement** が汎用されるが、エビデンスレベルの高いメタ・アナリシス論文を抽出するためには質の観点からの評価が必要である。そこで、質をできるだけ正確かつ迅速に評価するために、疑問的疑問、情報検索、研究の選択、研究の抽出、統合結果、出版バイアスの6項目、最大7ポイントでスコア化した評価基準を作成した。

第2章では、作成した評価基準を用いて、糖尿病の薬物療法のメタ・アナリシス論文と糖尿病の治療マネジメントのメタ・アナリシス論文を評価し、作成した評価基準の妥当性を検討した。まず、糖尿病の薬物療法の論文については、2009年7月までに報告された55論文を対象として、質の評価と **PRISMA statement** による記載様式の評価を行った。得点率(得点の百分率)の平均値は、質が57.1%、記載様式は64.5%であり、両者には有意な相関がみられた。また、糖尿病の治療マネジメントの論文については、2011年9月までに報告された44論文について同様に評価した。得点率の平均値は、質が53.0%、記載様式が60.2%であり両者には有意な相関がみられた。さらに、薬物療法と治療マネジメントの両者ともに、質の評価の得点率が70%以上で **ITT** 解析の論文の比率が高いことが示された。一方、記載様式の得点率が高いが質の得点率が低い論文を分析した結果、研究の選択、研究の抽出、統合結果、出版バイアスの項目の評価が低いことが示された。

第3章では、薬剤師が効果的に薬学的管理を実践するための情報提供のために、処方された薬剤の残薬に対する薬剤師の認識と確認状況の実態を把握し、薬学的管理の具体的な方策を提案した。2013年2月に実施したアンケート調査の回答を分析し、残薬により処方日数の調整を行う患者の一部は再び残薬による日数調整が必要になること、および、残薬確認の頻度が高いほど再び日数調整などが必要となる患者の比率が低いことが示された。また、繰り返し残薬が生じる患者への個別の対応策の検討の必要性が示唆された。

以上のように、本論文は、地域の医療現場の薬剤師による薬学的管理の支援に資する実践的な研究として優れているといえる。

よって本論文は、博士（薬学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以 上

平成26年1月16日